

Shinkin Asset
Management Co., Ltd.

会社案内

2023

はじめに

しんきんアセットマネジメント投信株式会社は、信用金庫業界の運用会社です。
信用金庫の皆さまに当社のことをもっと知っていただきたく、
「会社案内 2023」を作成いたしました。
本誌が、皆さまの業務運営のお役に立てれば幸いに存じます。

経営 理念

信用金庫業界の運用会社として、資産運用サービスの提供を通じて信用金庫の経営基盤の強化につとめ、信用金庫業界および社会の発展に貢献します。

運営 方針

- 1) 質の高い資産運用サービスを提供し、信用金庫のお客様の資産形成に寄与するとともに、信用金庫業界の運用ニーズに的確に応えます。
- 2) 法令等を遵守し、高い倫理観を持って誠実かつ公正な企業活動を遂行します。
- 3) プロフェッショナルな人材の育成を図るとともに、信用金庫業界の人材育成に貢献します。

<目次>

◆はじめに / 経営理念・運営方針	1P	◆資産運用について	6P
◆ご挨拶	2P	◆運用力強化に関する取組み	7P
◆会社概要	3P	◆商品開発力強化に関する取組み	8P
◆方針等	4P	◆サービス提供に関する取組み	9P
◆コンプライアンス・リスク管理態勢	5P	◆データ集	10P



ご挨拶



代表取締役社長 花岡 隆司

/ 取締役会長 工藤 淳

皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、信用金庫業界の運用会社として、1990年12月に設立され、爾来、信用金庫業界の皆さまの資産運用のお手伝いや、信用金庫のお取引先の皆さまの資産形成に資する投資信託商品等をご提供してまいりました。

おかげさまで運用資産合計は1兆円を超え、これもひとえに皆さまのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

現下の金融市場環境は、金利および為替の変動や不透明な国際情勢等により、一段と厳しさを増しております。こうした状況を鑑み、当社は資産運用のプロフェッショナルとして、お客様本位の業務運営に徹しつつ、中長期的な視点に立ち、運用商品・サービスの充実に努めているところです。

2023年度は、責任投資への取組みをより一層進めるとともに、2024年1月からはじまる新NISA制度への対応など、さらなる組織体制の強化が必要となります。こうしたことから、取締役会の機能向上およびガバナンス強化等を目的に、新たに取締役会長を設置することとし、元しんきん証券社長の工藤淳が会長に就任いたしました。

今後とも、信用金庫業界および信用金庫のお取引先の皆さまに一番に選ばれる運用会社を目指して、役職員一同、全力を尽くしてまいりますので、引き続きご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

花岡 隆司



取締役 森下 浩司 / 取締役管理本部長 勝亦 正和 / 監査役 西村 知明

会社概要

当社は、信金中央金庫 100%出資の信用金庫業界の運用会社です。

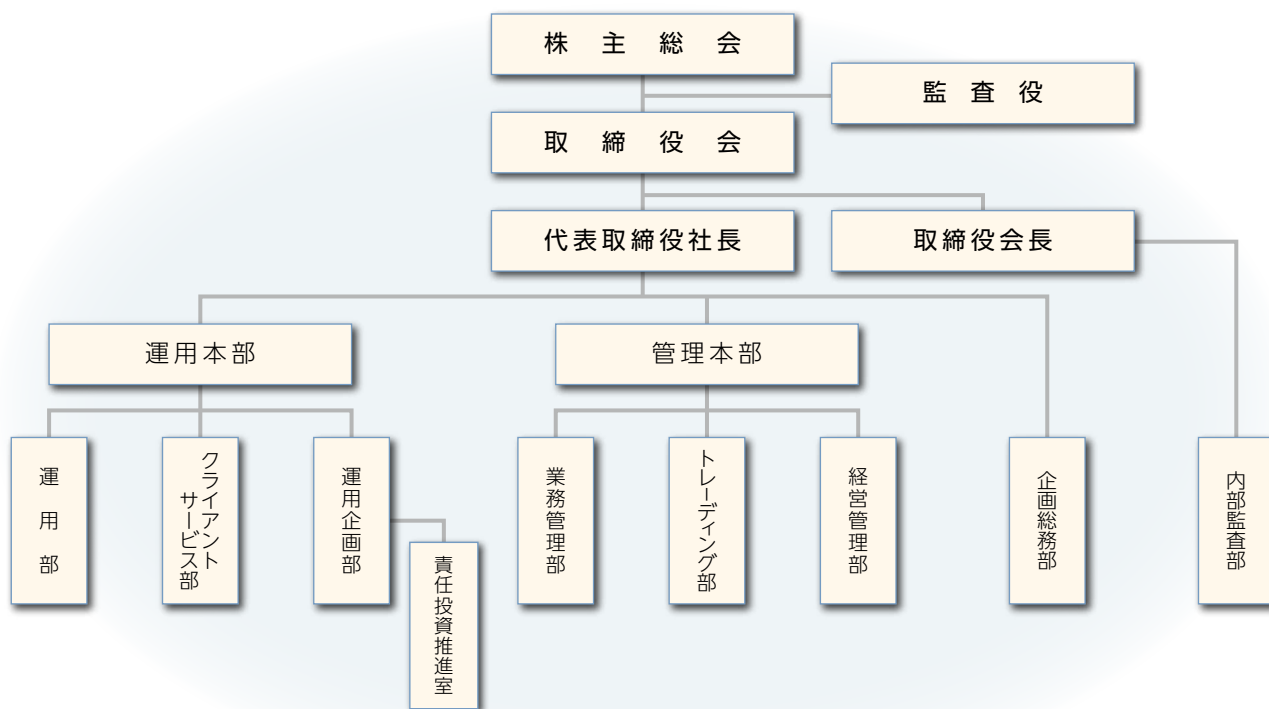
信用金庫の顧客向け投信窓販商品の提供や、これに伴う個人顧客向け資産運用セミナーへの講師派遣、信用金庫職員向けトレーニー研修・勉強会等の業務サポートを行っています。

また、信用金庫の資産運用ニーズに応えるべく、国内外の債券、株式等を組入れた様々な投信商品を組成し、しんきん証券株式会社等を通じて機関投資家の皆さまに提供しています。

会社概要 (2023年3月末現在)

・設立	1990年12月14日	・資本金	2億円
・金融商品取引業者	関東財務局長（金商） 第338号	・運用資産残高	1兆3,023億円
・加入協会	一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	・代表取締役社長	花岡 隆司
・事業内容	投資運用業 投資助言・代理業 第二種金融商品取引業	・役職員数	81名（常勤）
		・所在地	〒104-0031 東京都中央区京橋3-8-1
		・TEL	03-5524-8161（代表）
		・URL	https://www.skam.co.jp

組織図 (2023年6月20日現在)



※取締役会長は、2023年6月20日より設置



方針等

<お客様本位の業務運営>

お客様の安定的な資産形成の実現に貢献するため、「お客様本位の業務運営に関する取組方針」および「お客様本位の業務運営に関するアクションプラン」を制定・公表し、お客様本位の業務運営に取り組んでいます。

【お客様本位の業務運営に関する取組方針】

1. お客様の最善の利益の追求

全役職員が高い専門性と企業倫理をもって、お客様本位の業務運営を徹底し、お客様の最善の利益を追求します。また、お客様本位の業務運営が企業文化として定着するよう努めます。

2. 利益相反の適切な管理

お客様の利益が不当に害されることがないように、利益相反にかかる管理を適切に行います。

3. 手数料等の明確化

お客様に負担いただく手数料その他費用について、お客様に十分ご理解いただけるよう、丁寧な形で情報提供を行います。

4. 重要な情報の分かりやすい提供

商品・サービスの販売・推奨等にかかる重要な情報や経済環境・市場動向等について、お客様に十分ご理解いただけるよう、丁寧な形で情報提供を行います。

5. お客様に最適な商品・サービスの提供








お客様の資産状況、取引経験、知識および取引目的・ニーズに照らして、お客様に最適な商品・サービスの提供を行います。

6. お客様本位の業務運営を徹底するための枠組みの整備

お客様本位の業務運営を徹底するため、業績評価や役職員研修等の枠組みを整備します。

<SDGsへの取組み>

SDGs（持続可能な開発目標）について、信金中央金庫グループとして「地域」「人々」および「環境」の3つを重要なテーマとして取り組み、社会の持続可能な発展に向けて貢献してまいります。

テーマ	取組事例	関連するSDGs
◆地域の持続的繁栄 地域を支える信用金庫とその事業基盤である中小企業の持続可能性を高めるとともに、地域活性化支援への取組みを推進することで、地域社会の持続的な繁栄に貢献します。	信用金庫の 余資運用強化等	   
◆あらゆる人々の幸福 信用金庫とともに地域のシニア世代、子どもたち、そしてあらゆる人々の幸福のための活動に取り組み「誰一人取り残さない」多様性と包摂性のある社会の実現に貢献します。 特に、我が国の将来を担う子どもたちを、金融分野にとどまらず、幅広く支援します。	あらゆる世代に向けた 多様な商品提供等	     
◆地球環境の保全 事業活動における環境への負荷を低減することに努め、また、グローバルに投資を行い、環境問題に配慮した投資を推進することで、地球環境の保全に貢献します。	ESG 投資の推進等	    

<環境への取組み>

地球環境の保全が人類共通の責務であるとの認識から、環境問題に対する役職員の行動の基本となる指針として、「信金中央金庫グループ環境方針」を採択し、グループ一体となって環境保護に資する取組みを進め、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

コンプライアンス・リスク管理態勢

1. コンプライアンス態勢について

信用金庫業界のための資産運用会社として、高い社会的責任や公共的使命を果たすため、取締役会のもとでコンプライアンスに関する問題を一元管理する体制を構築しています。

原則月次で開催するコンプライアンス・運用管理委員会では、コンプライアンスに関する重要事項を審議しています。コンプライアンス担当部門および関連部門を定め、それぞれの役割を明確にし、全部門にコンプライアンス責任者、担当者を配置しています。また、コンプライアンス態勢の適切性、有効性を検証するため、全部門から独立した内部監査部門を設置しています。

上記責任や使命を果たすための施策として、役職員が遵守すべき倫理規範および行動基準を示した「しんきんアセットマネジメント投信倫理綱領」、年度ごとの具体的な実践計画である「コンプライアンス・プログラム」、役職員が遵守すべきルールを明確にするための具体的な手引書である「コンプライアンス・マニュアル」を策定するとともに、全役職員を対象にコンプライアンス研修を行うなど、コンプライアンス意識の徹底に努めています。

2. 利益相反管理態勢について

業務運営において利益相反によりお客様の利益が不当に害されることがないように、利益相反管理態勢を整備し、その概要を利益相反管理方針として公表しています。

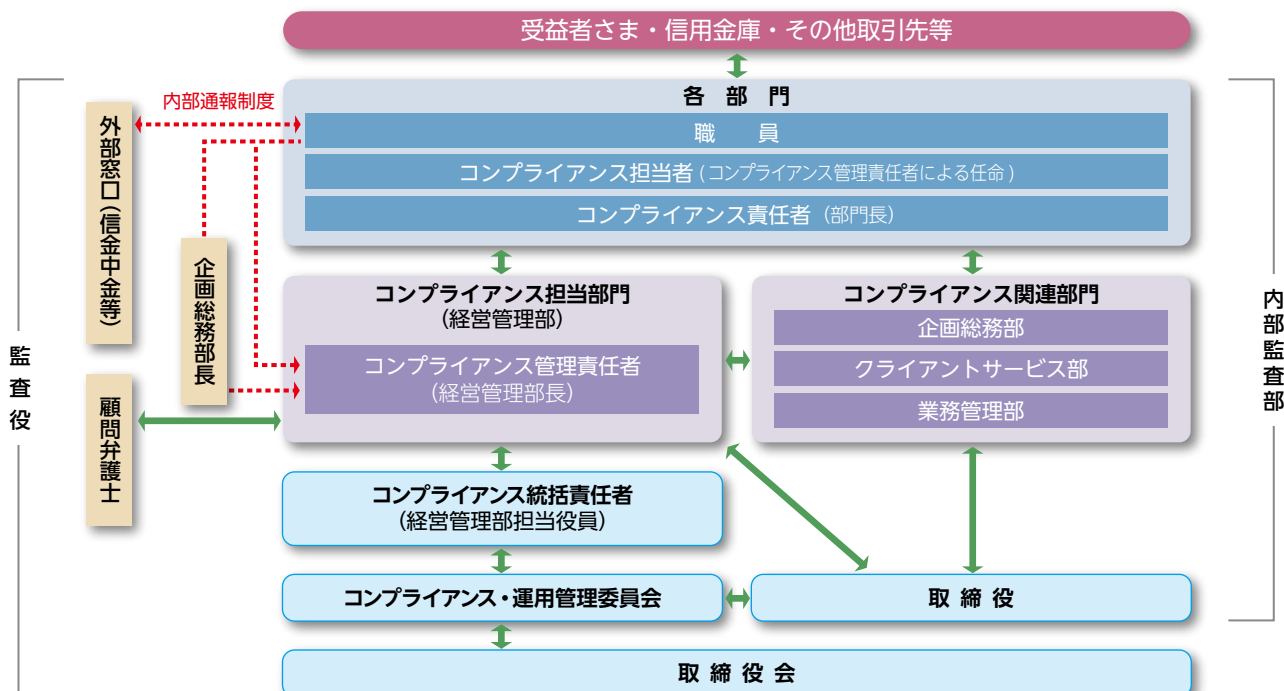
利益相反のおそれがある取引等の類型を以下のとおり定め、管理対象としています。また、当該管理対象に関する統括責任者と管理部門を定め、お客様の利益が不当に害されるおそれのある取引等の特定および利益相反管理を一元的に行っています。

- ・ 当社等の取引先と運用資産の取引等（議決権行使を含みます。）
- ・ 運用資産相互間の取引等
- ・ 当社およびその役職員が運用資産に係る情報を利用して行う取引等
- ・ 当社およびその役職員がお客様の資産運用に係る情報を利用して行う取引等
- ・ 当社と当社関係会社間の不当な情報の授受
- ・ 上記のほか、顧客の利益が不当に害されるおそれのある取引等

3. リスク管理態勢について

金融機関を取巻く環境は日々変化しています。当社では、お客様に安心してお取引いただくためにリスクの種類ごと（信託財産の運用リスク、事務リスク、システムリスクおよびコンプライアンス・リスク）にリスク管理の基本方針と組織体制を定め、各リスクの特性に応じて、機動的・効果的なリスク管理態勢を構築しています。

<しんきんアセットマネジメント投信のコンプライアンス態勢>





資産運用について

<運用の基本的な考え方>

◆中長期的な運用の重視

運用は、分散投資を基本とし、ファンダメンタルズの調査・分析に基づく投資判断に加え、投資の意思決定に際して非財務的要素であるESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することにより、責任ある投資を実行するとともに、中長期的な資産価値の増大を図ることを重視しています。

◆運用の一貫性・継続性の確保

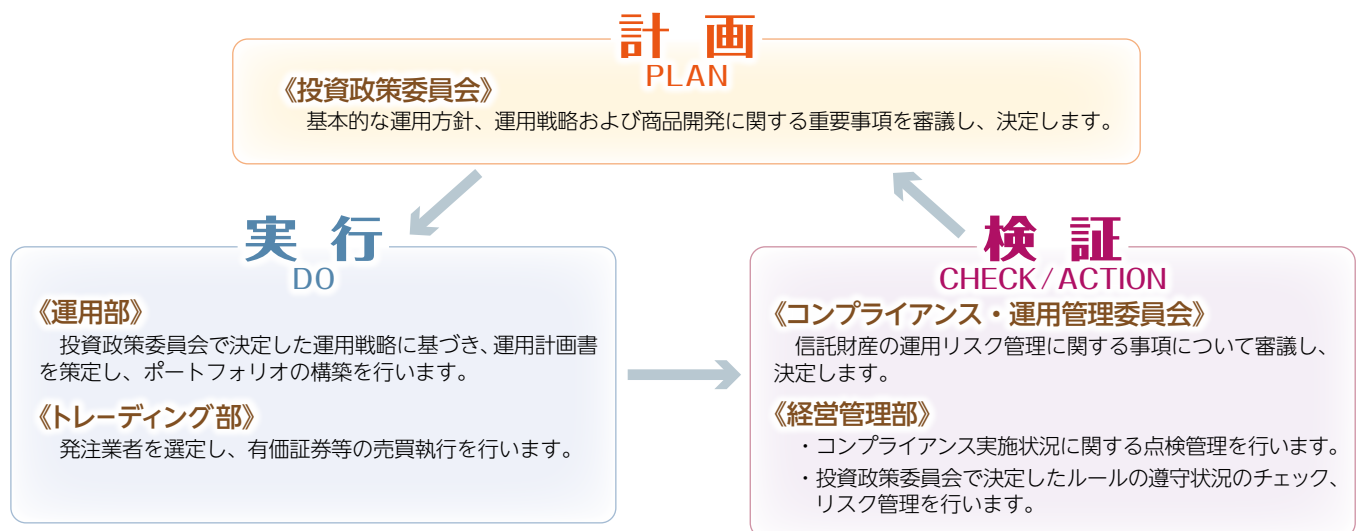
運用の実践にあたっては、プロセスやポートフォリオのモニタリング、リスク分析および結果検証など運用に係るPDCAを徹底し、一貫性・継続性を確保します。

◆積極的な情報開示

運用内容については、明確で分かり易く、透明性の高い情報開示を積極的に行います。

<運用管理体制>

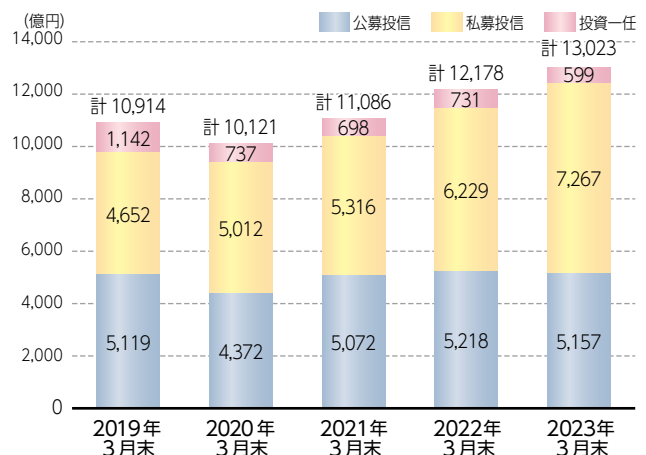
計画・実行・検証をつねに繰り返し、投資結果を最良のものにするための運用管理体制を構築しています。



<運用資産残高推移>

信用金庫のお客様等個人投資家向けに公募投信を、信用金庫等機関投資家向けに私募投信を、一部機関投資家向けに投資一任契約を提供しており、年度末時点の運用資産残高は、2018年3月末以降1兆円を超えて推移しています。

2023年3月末の運用資産残高は、公募投信は若干の減少となったものの、私募投信は、信用金庫等の運用ニーズを汲み取った商品提供を積極的に行ったこともあり大きく増加し、合計13,023億円と、過去最高になりました。



(注) 投信は3月末純資産総額、投資一任は3月末契約残高
(2019年～2022年は、年度の契約期日残高)

運用力強化に関する取組み

信用金庫業界に特化した運用会社として、信用金庫および信用金庫のお客様の中長期的な資産形成に貢献することを第一の使命と考えており、そのための運用力強化に取り組んでいます。



運用部長 三浦 直人

◆運用プロフェッショナル人材の確保

お客様の信頼獲得につながる運用力強化には、豊富な経験と専門知識を持った人材を確保し、体制整備を行うことが重要だと考えています。

2023年3月末時点において、当社のファンドマネージャーの運用経験年数は平均18年と、経験豊富なメンバーが揃っており、これらのメンバーが株式、債券、REIT等専門分野を活かしたチームにより運用を行っています。

また、国内外債券運用に対する顧客ニーズの高まりから、債券担当のファンドマネージャーを増員するなど、体制強化に努めています。

人材の推移

ファンドマネージャーに係る各種指標については、右表のとおりです。

2022年度は、増員を行うとともに、国内外債券チームの再編を行うなどの運用力強化に向けた取組みを進めました。

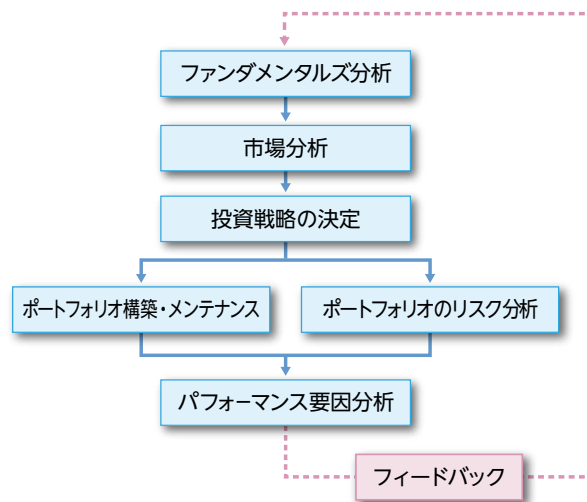
	2022年3月	2023年3月
ファンドマネージャー	15人	16人
平均運用経験年数	19年0か月	18年0か月
平均在籍年数	9年5か月	9年6か月
日本証券アナリスト検定会員	10人	10人

◆多角的な視点による投資調査

投資収益最大化のためには、市場は非効率的であるという前提のもと、多角的な視点による経済状況や市場動向等の投資調査を継続して行い、魅力的な投資機会を発掘することが重要だと考えています。

当社は、長年の資産運用で培ってきた投資知識や運用技術をもとに、ファンダメンタルズ分析、市場分析を行い決定する投資戦略に沿って投資を実行することで、各資産クラスや運用スタイルに適した運用を行っています。

これらの分析には、社内のアナリスト、エコノミスト、ストラテジストが収集・分析した情報が共有されており、ファンドマネージャーが魅力的な投資機会を発掘するための運用サポート体制が構築されています。



◆ESGを考慮した運用プロセスの導入

お客様の資金の収益最大化のためには、長期的な価値創造が必要であり、そのためには投資先企業の持続的な発展、ひいてはその先にある社会経済全体の発展に貢献することが必要だと考えています。

ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮した運用を行うことは、中長期的なリターンが獲得できる可能性があることに加え、責任投資という観点からも非常に重要性が高まっています。

2022年度においては、投資対象資産ごとにESGに関する評価項目および基準を定めるなど、ESGを考慮した運用プロセスの導入に向けた取組みを開始しました。

この取組みは2023年度も継続しており、ESGを考慮した運用プロセスを導入しているファンドは、資産構成比で当社運用資産の約9割となりました（2023年6月末時点）。



商品開発力強化に関する取組み

信用金庫および信用金庫のお客様に向けて、多様なニーズにお応えできる商品を提供し、お客様の中長期的な資産形成に貢献することを目指しています。

商品開発力強化に取り組むとともに、責任投資に向けた取組みも進めています。

◆多様なニーズにお応えする商品ラインナップ

「中長期的なお客様の資産形成に資する」というコンセプトを軸に、幅広い資産クラスで多種多様な商品を提供し、その規模は2023年3月末現在、公募投信で5,157億円(36本)、私募投信で7,267億円(170本)となっています。

2022年度、公募投信については、海外の指標に連動する運用を目指すインデックスファンドを2ファンド設定しました。また、新NISA制度へ対応したファンドの組成準備を開始し、2023年度設定予定です。

私募投信については、外国債券やETFを活用したファンド、マルチアセット型ファンド、インデックス型Jリートファンドなど、様々な商品を計23ファンド設定しました。



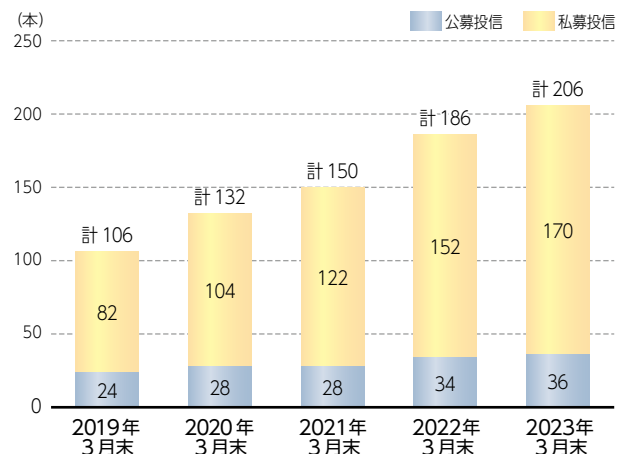
運用企画部長 泉 功二

<投信の商品数推移>

投信の商品数推移は右グラフのとおりです。

公募投信は、特定のテーマを持った商品よりもオーソドックスなタイプの商品が多く、厳選して設定しています。

私募投信は、機関投資家のニーズに沿った多様な商品をコンスタントに設定しており、商品数は2019年3月末から倍以上になりました。



◆責任投資に向けた取組み

お客様から大切な資金の委託を受ける立場として、2014年5月「責任ある機関投資家」の諸原則<日本版スチュワードシップ・コード>の受け入れを表明し、スチュワードシップ活動に取り組んでいます。

また、2021年11月に責任投資原則(PRI)の署名機関となり、責任投資への取組みを強化しています。



運用企画部責任投資推進室長 石川 昌弘

◆責任投資に向けた社内体制の整備

責任投資に向けた社内体制の整備として、2022年7月、商品開発を担う運用企画部内に「責任投資推進室」を創設しました。

創設当初の専担者は1名(他に兼務者数名)でしたが、2023年4月からは、室長を含む専担者3名(引き続き兼務者数名)の体制となり、より一層、責任投資への取組みを推進できる体制となりました。

◆エンゲージメントの強化

投資先企業の事業環境等に関する深い理解に基づく建設的な「目的を持った対話」(エンゲージメント)を行うことは、当該企業の企業価値の向上や持続的成長を促し、お客様の中長期的な投資リターンの拡大につながると考えています。

エンゲージメントの強化に向けて、2022年度は対象銘柄選定プロセスの確立や関連規程等の改正などを行いました。また、2023年度も積極的なエンゲージメントの実施に努めています。

サービス提供に関する取組み

信用金庫の公募投信販売をサポートするため、各種研修やお客様向け資産運用セミナー等に講師を派遣しています。また、信用金庫業界の発展に貢献するため、信用金庫間のリレーション向上支援に向けた取組みを進めています。



運用本部長兼クライアントサービス部長 山下 賢巳

◆信用金庫サポート業務

クライアントサービス部を中心に、各部門の専門性の高いスタッフを加え、総力をあげて信用金庫の皆さまをサポートしています。

具体的には、公募投信販売サポートのため、信用金庫職員向けの投信窓販業務研修や、お客様向け資産運用セミナー等に講師を派遣しています。

研修では、各信用金庫からの要望に基づいた投資信託の基礎知識や各ファンドの内容、セールス話法などを分かりやすく説明しており、セミナーでは、資産運用の必要性や各ファンドの運用状況、内外経済の現状や見通し等を解説しています。

また、研修・セミナー等は、対面による開催だけでなく、オンラインでも行っています。

研修・セミナー例		内容
研修	投資信託の基礎知識	投資信託の仕組みやリスク・リターン、分散投資等
	投信セールス方法	効果的なアプローチやニーズ喚起、商品説明方法等
	投信窓販コンプライアンス	顧客に対する投資勧誘、販売ルール等
セミナー	資産運用の必要性	平均寿命や老後資金等による運用の必要性等
	世界経済の現状と見通し	各国の株価推移や景気の先行き等
	当社商品の運用状況	各商品の基準価額推移や今後の動向等



研修風景



◆新NISA制度対応サポート

2024年1月開始の新NISA制度に向けて、対応商品の開発を進めるとともに、研修やお客様向けセミナーにおいて、制度の変更点やポイント等の情報提供を行っています。また、制度変更に伴う取扱商品の見直し検討等に係るサポートを行うなど、信用金庫と一体となった対応に取り組んでいます。

今後も、信用金庫の投信窓販業務の推進に貢献していきます。

◆動画による情報提供の充実

お客様にとってより分かりやすい情報提供に努めるため、市況・マーケット情報や商品概要の動画を作成し、ホームページに掲載しています。

また、信用金庫向け専用ページには、商品説明に向けた動画を掲載するなど、信用金庫の投信窓販業務に役立つ情報提供も充実させています。



データ集

<貸借対照表>

(単位：百万円)

科 目	2021年度	2022年度	増 減
(資産の部)			
流動資産	8,101	8,830	728
現金・預金	7,486	8,096	610
未収委託者報酬	572	684	111
その他	42	49	6
固定資産	197	178	▲18
有形固定資産	103	91	▲11
無形固定資産	49	43	▲5
投資その他の資産	44	43	▲1
資産合計	8,298	9,009	710
(負債の部)			
流動負債	784	767	▲17
未払金	427	486	58
未払法人税等	217	151	▲65
その他	140	129	▲10
固定負債	169	185	15
退職給付引当金	141	147	6
その他	28	37	9
負債合計	954	952	▲1
(純資産の部)			
株主資本	7,344	8,056	711
資本金	200	200	—
利益剰余金	7,144	7,856	711
評価・換算差額等	0	0	0
その他有価証券評価差額金	0	0	0
純資産合計	7,344	8,056	711
負債・純資産合計	8,298	9,009	710

<損益計算書>

(単位：百万円)

科 目	2021年度	2022年度	増 減
営業収益	5,871	5,996	125
委託者報酬	5,745	5,878	133
運用受託報酬	125	117	▲7
営業費用	4,738	4,957	218
支払手数料	2,827	2,900	73
その他	1,911	2,056	145
営業利益	1,132	1,038	▲93
営業外収益	0	0	▲0
営業外費用	1	1	▲0
経常利益	1,131	1,037	▲93
特別損失	6	3	▲3
税引前当期純利益	1,124	1,034	▲89
法人税等	355	319	▲35
法人税等調整額	▲5	2	8
当期純利益	774	711	▲62

<本資料に関してご留意していただきたい事項>

※当資料は、しんきんアセットマネジメント投信株式会社により作成されたものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、当社情報の提供を目的としており、投資信託の勧誘を目的とするものではありません。

※当社は、投資信託の募集の取扱いおよび販売業務を行っていません。

※当資料は、信用金庫向けに、当社をよりご理解いただくことを目的として作成された資料です。

※当資料は、信頼できると思われる情報源に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

※当資料の中で記載されている経済全般の実績、評価または将来動向の表示等は、作成日時点におけるものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変わる場合があります。

※投資信託および投資一任は、リスクを含む商品であり預金と異なり元本の保証はありません。

※当資料を当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し、また、その他の方法で配布することはご遠慮ください。

 しんきんアセットマネジメント投信株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号
03-5524-8161 (代表)

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第338号
加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

UD FONT

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた、どなたにも見やすいデザインの文字を採用しています。